

## 世界の異常天候とその影響評価 (26)

(Climate Impact Assessment, April, 1986, NOAA/NESDIS)

## 1. 合衆国——干ばつ

平年を下回る降雨は合衆国南東部の干ばつを悪化させ、穀物の作付け、発芽を遅らせ、火災の危険性を増大させた。バーミンガム、アトランタ、モンゴメリー、タラハシー等多数の都市では、記録上最も乾燥した4月と報告されている。この乾燥は12月以来続いており、5カ月の累積雨量は平年値の約半分にすぎない。

## 2. ボリビア・ペルー——大雨

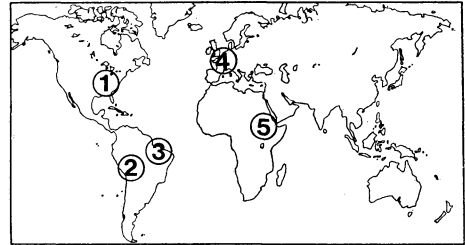
ボリビア西部とペルー南部の大雨は氾濫を再び悪化させた。伝えられるところによれば、チチカカ湖周辺の氾濫は今世紀最悪とのことである。国連食糧機関は、ボリビアのグアギ港は全く水の下にあると報告している。ペルーのプーノ県では2万世帯が氾濫で家を失った。

## 3. ブラジル北東部——大雨

平年を上回る降雨がここ2カ月続き、洪水は悪化しつららしい。最近の被害報告は入手していない。

## 4. 西ヨーロッパ——低温

英、仏、オランダ、ベルギー、西独における多雨、



低温の天候は春もの穀類の種まきを遅らせ、暖房エネルギーを増大させた。少なくとも過去21年で最寒の4月で、エネルギー需要は平年を26%上回った。

## 5. エチオピア——多雨

若干の地域では穀物や道路が洪水で被害を受けたが、30年来最高の多雨は干ばつの影響を今だに受けている穀物や牧草の生長を元気づけている。アジスアベバの降水量は約250mmと見積もられ、4月の総降水量としては今世紀最高である。

注：上記各項目の番号は図中の番号に対応している。

(気候変動対策室 重原好次)

## 第12回「リモートセンシングシンポジウム」講演募集などのお知らせ

主催：(株)計測自動制御学会 企画：リモートセンシング部会

下記要綱によって一般講演の募集をいたしますので、ふるって応募されるよう希望いたします。

期 日：昭和61年10月27日(月)、28日(火) 特別講演、一般講演、懇親会

会 場：国立教育会館(東京都千代田区霞が関3-2-3)

特別講演：10月27日(月)午後

「本格的海洋リモートセンシングの時代を迎えて」 講師 寺本俊彦

(東京大学海洋研究所)

「ERS-1 について」 講師 丹羽俊太郎

(資源リモートセンシングシステム研究組合)

講演申込締切：昭和61年7月12日(土)

講演申込方法：A4判用紙に下記を記入し、学会事務局宛お申し込みください。

1) 題目、2) 発表者氏名(登壇者に○印)および勤務先、3) 登壇者の氏名、連絡先と所

属学協会名、4) 400字以内の概要、5) 希望するセッション名(下記参照、複数可)、

6) 原稿枚数(2ページか4ページ)の指定、

1)、2)については英文名も併記してください。

講演セッション名：計測システム、データの収集および補正、データ解析システムと手法、応用などを予定しています。

講演の予稿集：講演時間は1件20分とし、予稿集はオフセット印刷で1論文1,480字詰原稿用紙2ページまたは4ページとします。原稿用紙は申込みの後、学会事務局より送付いたします。

講演原稿の締切：昭和61年9月25日(木)

参加費(予稿集代金)：当学会および協賛学協会会員5,500円、学生3,500円、一般6,500円

講演申込先：(☎113)東京都文京区本郷1-35-28-303

(株)計測自動制御学会 リモートセンシングシンポジウム係、電話(03)814-4121